

創立146周年

学校だより



は
南 風 の 子

中種子町立

南界小学校

令和元年10月23日(水)

まだまだ続く学校行事、校区・町行事で磨きたいこと

校長 吉留 巧

9月23日の運動会は校区の事情により小学校単独の運動会となりましたが、たくさんの地域の皆様の応援をありがとうございました。お陰様で子どもたちは練習の成果を十二分に発揮できたと思います。また、町民体育祭の選手の皆様もお疲れ様でした。



また、この10月号がお手元に届くころは、中種子町相撲大会(10/27)に向けた練習が佳境に入り毎晩激しいぶつかり合いが続いていると思います。

さらに、11月に予定している町音楽祭(11/6)、学習発表会(11/9)、町駅伝競走大会(11/17)の練習も始まっています。いろいろな行事を通して、一層、自分の身体を鍛えること、我慢強く取り組む心を鍛えること、感謝の心を磨くこと、まさに今自分が伸びるときという前向きな気持ちで取り組んでほしいと思います。

そのためにも、日々の生活リズムを崩さず、授業でも家庭学習でも、やるべきことをきちんとやるというたくましさを磨くいい機会にしてほしいと思います。

また、夜も長く涼しくなり読書に最適の時期となりました。家族で読書に取り組むのもいい時期ですね。読書といえば↓↓↓

【ノーベル化学賞 大野 彰氏に】

今年のノーベル賞の受賞者が発表されています。日本人では昨年度のノーベル医学賞の本庶佑さんに続き、今年はノーベル化学賞で旭化成所属の「大野彰名誉フェロー」の受賞が発表されました。

大野先生の受賞理由は、リチウムイオン電池の開発で化石燃料が不要になる社会を実現する可能性を開いたというものです。つまり、今の地球の環境問題に対して一つの答えを示したということだそうです。

大野先生は、旭化成に研究員として入社後10年間はこれといった研究成果を上げることができずに追い込まれていたそうです。そんな時、今年のもう一人の受賞者のジョン・グッドイナフ博士の論文に1981年に出会い、リチウムイオン電池の開発に取り組んだとのこと。そして、1986年に製品化に成功。しかし、製品の良さがなかなか評価されず売れない時期が続いたそうです。

そして、突然動き出したのが1995年。Windows 9.5です。IT革命にリチウムイオン電池が使われ社会が大きく変わっていきました。携帯電話、デジタルカメラ、スマートフォン、電気自動車、宇宙ステーション。特に、宇宙ステーションでは太陽光パネルで発電した電気をリチウムイオン電池で蓄電。宇宙飛行士の生活や命を守り、科学の進歩に大きく貢献しています。

また、先日の台風15号の猛威で大きな被害が出た千葉県の大網町小中学校では、太陽光パネルとリチウムイオン電池の蓄電システムが整備されていたおかげで、地域全体が停電中、電気が再開されるまでの5日間、電源を確保できたことで大きな注目を集めています。今後の地球の環境問題に寄与していくリチウムイオン電池の可能性に注目ですね。

ところで、大野先生の科学を志すきっかけになったのが、イギリスの科学者フェデラーという人が書いた「ロウソクの科学」という本だそうです。ロウソクがなぜ燃えるのかなどをひもといた本です。大野先生は、これを読んで子ども心に科学っておもしろそうだと思い、科学者を目指すきっかけになったということです。一冊の本から興味が湧き、将来の目標が定まったんですね。

南界小の子どもたちもそんな本の出会いをしてほしいと思います。



【大野 彰氏】